

異年齢集団におけるかかわりを重視した複式国語科指導の在り方

石川 雅 仁〔鹿児島大学教育学部附属小学校〕

The teaching method of ideal Japan in different ager's assemblage for Combined Class

ISHIKAWA Masahito

キーワード：複式学級，国語科，異年齢集団，指導法，かかわり

I はじめに

本校では、これまで異年齢集団における学びの深め方について、総合的な学習の時間と特別活動を中心に研究を進めてきた。そこで明らかになった学びの深め方や授業を創造していく上での基本的な考え方を基に、各教科等においても明らかにしていく必要があると考えた。

そこで、以下の理由から、複式教育における国語科のカリキュラム創造を行い、それを基に指導の在り方を探ることとした。

- 学習指導要領において、国語科の目標や内容は、2学年まとめて示されている。そのため、同単元同内容の授業の組合せが可

・ 異年齢集団としての特性

良きリーダー、良き協力者の形成	<ul style="list-style-type: none">○ 協力者とリーダーという両方の立場が経験できる。○ 上下学年の関係の中で、社会性が身に付きやすい。○ 異学年・同学年の中で、助け合って活動する場が多く設定でき、協力的な態度が身に付きやすい。○ 子どもが下の学年の子どもの世話をして、リーダー性を発揮できる。
自主的・自発的な学習態度の形成	<ul style="list-style-type: none">○ 教師のつかない間接指導の時間が存在し、自分たちで学習を進める態度や力が身に付きやすい。
子どもの能力の逆転現象	<ul style="list-style-type: none">● 子どもの能力が学年の進み具合と必ずしも一致しない場合がある。下の学年の子どもの能力の方が高くなる逆転現象も考えられる。

・ 少人数集団としての特性

学級内の一人一人の存在感が大きい	<ul style="list-style-type: none">○ 子ども同士の間関係、子どもと教師の間関係が深まりやすい。○ お互いを理解し合い、認め合う雰囲気を醸成しやすい。○ 係活動、掃除など一人一人の活躍の場が保証されており、自覚をもって行動させやすい。
協力的態度の育成	<ul style="list-style-type: none">○ まとまりのある学級を意識して学校生活を送り、協力的な態度が育成されやすい。
学年別・性別のアンバランス	<ul style="list-style-type: none">● 2個学年の子どもの人数が必ずしも一致しない。● 男女の子どもの人数が必ずしも一致しない。● 望ましい人数のグループが作れない。
見方や考え方の平板化	<ul style="list-style-type: none">● 多様な見方や考え方が出にくい。● 能力の高い子どもの考えに左右されやすい。● 意見交換を基に磨き合いが活性化されにくい。

能であり、複式学級のよさを生かした多様な授業構成を考えやすい。

- コミュニケーション能力の育成を重視する国語科のカリキュラム創造と、異年齢集団におけるかかわりを重視した指導の在り方を追究することは、他の教科等における複式学級のよさを生かしたカリキュラムの創造と指導に応用ができる。

II 複式学級における国語科指導とは

複式学級においては、以下のように、異年齢集団としての特性や少人数集団としての特性がある。(○はよさ、●は課題を表す。)

これらの特性の課題点に目を向けて、単式学級と同じような指導を行うことを目指すのではなく、複式学級のよさに目を向け、よさを最大限活用するという考え方で、複式ならではの指導を行うことを目指すべきであると考えられる。

また、複式学級における国語科の指導は、複式の特徴を生かした指導を行うため、単式学級とは指導方法が異なる。しかし、単式学級における国語科の指導と目指すものは同じでなければならない。

そこで、複式学級における国語科指導においても、単式学級の国語科の目標と同じように、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて指導していく必要がある。

その際、特に、以下の能力を育成することを重視する。

- 言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力 **【論理的思考力】**
- 互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力 **【伝え合う力】**
- 我が国の言語文化に触れる感性や情緒 **【感性や情緒】**

これらの能力を育成するために、言語活動を充実させるための方策や、学習したことを授業外で活用・探究できる場を積極的に設定することが必要である。

また、複式学級の特徴を生かし、異年齢集団におけるかかわりを重視した国語科の単元の指導計画を立てる際に留意したいことは以下のようになる。

単元の段階	異年齢集団のかかわりを重視した授業づくりの際の留意点
つかむ	課題をしっかりとつかみ、自分なりに課題解決のための目標や方法を考え、学習意欲をもつ。その際、同学年間や異学年間で話し合い、母体数を増やした話し合いをしたり、生活経験が違う集団で話し合いをしたりすることで、より強い関心や課題意識をもつことができるようにする。
みとおす	課題解決に向けての言語活動、着目する言葉、表現のための観点、読みの視点などの活動の見通しについて、下学年は上学年にアドバイスをもらうことで、自分の考えをより明確にし、高めることができるようにする。また、上学年は下学年に説明することで自分の考えをより強固なものにさせる。
しらべる	自分なりの言葉に対する見方・考え方・感じ方を生かして、課題解決を図ることでできるようにする。その際、下の学年は上の学年から助言をもらう活動の場を、上の学年は下の学年に自分の考えを分かりやすく説明する活動の場を意図的に盛り込むことで、より高次での課題解決を図ることができるようにする。
ふかめる	学び合いにおいて、自分の思考の過程や相違点・共通点について話し合うことで、個々の考え方の違いに気付く。その際、同学年同士や異学年同士で積極的にかかわれる言語活動を積極的に取り入れる。 (例) 異学年合同の音読発表会を行って、登場人物の行動について、児童の発達の段階に応じた想像を広げた読み取り方の違いを比べさせる。
ふりかえる、いかす	学習を通して、自分の見方・考え方・感じ方がどのように変わったのかということと、なぜ変わったのか変化の過程を振り返る評価活動を行う。その際、自己評価だけでなく、同学年や異学年からの評価も加味させた相互評価を行うことで、これまでの学習を多角的に振り返ることができる。

以上のことから、次の3つの視点で複式国語科のカリキュラムを創造し、指導の在り方を探ることとした。

視点① 指導内容の組合せの工夫
視点② 学びを深める「学び方」を発揮する場面の明確化
視点③ 国語科授業以外での取組み

Ⅲ 異年齢集団におけるかかわりを重視した複式国語科指導の具体化

1 視点①「指導内容の組合せの工夫」から

国語科の各領域や単元の種類や特性を考慮して指導内容を組み合わせることで、異年齢集団のかかわりを重視した年間指導計画を編成する。

組み合わせ例	領域、単元の種類	領域、単元の特性	年間指導計画を編成する際の手順、留意点
同単元同内容 ↓ A・B年度案	話すこと・ 聞くこと	・ コミュニケーション能力をはぐくむ上で特に土台となる。	・ 2学年を通じて螺旋的・反復的に学習することで、より知識・技能・理解を高められるようにしたり、より親しめるようにしたりする。 ・ 学習経験の違う大きな集団で学んだ方が、考えが広がりやすく、高まりが見られやすい。
	書くこと		
	読むこと (文学的文章)	・ 2学年まとめた目標や内容であるが、説明的文章ほど学習内容に系統がない。	
	伝統的な言語文化に関する事項	・ 伝統的な言語文化に親しむことを目的としている。 ・ 2学年まとめた内容で示されている。	
異内容 ↓ 学年別指導	読むこと (説明的文章)	・ 2学年まとめた目標や内容であるが、学習内容に系統がある。	・ 学習内容を一元化し、異学年同士がかかわれる場面をより多く設けられるようにする。 ・ 特に、入門期の段階の学習での充実をさせたい。(言葉の特徴やきまりに関する事項) ・ より確実な定着を図るために、上の学年に担当されている漢字や学年別に担当されている漢字以外の常用漢字の読みの指導を積極的に行う。 (文字に関する事項)
	言葉の特徴やきまりに関する事項	・ 学習内容に系統がある。	
	文字に関する事項	・ 学年別の担当漢字がある。	

以上のことを踏まえ、異年齢集団のかかわりを 表のようになる。
重視した国語科の年間指導計画を作成すると次の

【異年齢集団のかかわりを重視した国語科の年間指導計画（第5, 6学年一部抜粋）】



なお、基本的には2個学年の単式学級の指導計画を合わせて作成するが、異学年間がかかわることができる場面をより多く設定できるようにする

ために単元の入れ換えを行う。

以上のことを踏まえ、年間指導計画の見直しを行った。下の表は、第5・6学年のものである。

【表 第5・6学年複式学級 国語科年間指導計画】

月	第5学年 (A年度)		第6学年 (B年度)	
	単元名	教材名	単元名	教材名
前 期	1 本に親しみ、人間を見つめよう	続けてみよう	1 本に親しみ、自分と対話しよう	続けてみよう
		新しい友達		カレーライス
		漢字の成り立ち		漢字の形と音・意味
		お願いの手紙、お礼の手紙		短歌と俳句の世界
		敬語		暮らしの中の言葉
	2 要旨をとらえよう	晴間／海雀／雪	2 文章を読んで、自分の考えをもとう	今も昔も 狂言
		サクラソウとトラマルハナバチ		生き物はつながりの中に
		漢字の広場①		漢字の広場①
	3 調べたことを整理して書こう	言葉の研究レポート	3 相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックを作ろう
		仮名づかいの決まり		よりよい文章に
		インタビュー名人になろう		学級討論会をしよう
		漢字の広場②		漢字の広場②
4 読書の世界を広げよう	千年の釘にいどむ	4 読書の世界を広げよう	森へ	
	本は友達		本は友達	
	未確認飛行物体		船／りんご	
	カンジー博士の暗号解読		同じ訓をもつ漢字	
5 伝え合って考えよう	漢字の広場③	5 共に考えるために伝えよう	漢字の広場③	
	人と「もの」とのつき合い方		みんなで生きる町	
	和語・漢語・外来語		日本で使う文字	
後 期	1 人物の考え方や生き方をとらえよう	わらぐつの中の神様	1 表現を味わい、豊かに想像しよう	やまなし
		方言と共通語		イーハトーヴの夢
		漢字の広場④		漢字の広場④
		言葉の組立て		熟語の成り立ち
		ニュース番組作りの現場から		平和のとりでを築く
	2 目的に応じた伝え方を考えよう	工夫して発信しよう	2 筆者の考えを受け止め自分の考えを伝えよう	自分の考えを発信しよう
		編集して伝える		インターネットと学習
		ねぎぼうず／ケムシ・一／耳／蝶		漢字の広場⑤
		漢字の読み方と使い方		覚えておきたい言葉
	3 言葉って、おもしろいな	「失敗」をめぐって	3 言葉って、おもしろいな	今、わたしは、ぼくは
		物語を作ろう		感動を言葉に
		どんなとき、だれに		わたしたちの言葉
言葉や表現のちがいがから		漢字の広場⑥		
漢字の広場⑥		カンジー博士の漢字クイズ大会		
学習したことを生かして	大造じいさんとガン	学習したことを生かして	海の命 今、君たちに伝えたいこと 生きる	

… 説明的文章を学年別指導で行うために、単元を入れ換えた。

… 文字に関する事項を学年別指導で行うために、単元を入れ換えた。

… 子どもの実態や教科の目標を達成させるために指導形態を変え、単元を入れ換えた。

2 視点②「学びを深める『学び方』を発揮する場面の明確化」から

(1) 「伝え合う力」の育成の重点化

学習指導要領では、「伝え合う力」の育成を重視している。そのため、「話すこと・聞くこと」の領域では、よりコミュニケーション能力を高める上での見直しが行われた。また、「書くこと」「話すこと」の領域では、「交流に関する事項」として、よりコミュニケーション能力を高めるための指導

事項が新たに盛り込まれている。

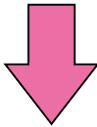
そこで、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」に設定されている交流に関する指導事項を指導内容を積極的に盛り込むことで、異年齢集団におけるかかわりを重視した指導ができると考える。

その際、下の例のように各領域の交流に関する事項等と「学びを深める『学び方』」を有機的に絡めて指導すると効果的であると考える。

【例】5,6年単元「今、私は、ぼくは」より

「B書くこと」交流に関する指導事項

書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。



学びを深める「学び方」系統表

	低学年	中学年	高学年	
聞き方	相手の知らせたいことは何かを考えながら聞く。	相違点や共通点はどこか、自分と相手の考えを比較しながら聞く。	相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。	相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。
話し方	相手に分かりやすい言葉で伝える。	図や言葉などを活用して伝える。	図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。	図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。
問い返し方	分からないところを問い返す。	考えの分からないところを問い返す。	考えや考え方の分からないところを問い返す。	考えや考え方の分からないところを問い返す。

この出来事は、最初に行ったほうが、言いたいことが伝わると思うよ。

【伝え方】



〇〇さんは出来事を、時間の順で並べていたけれど、本当にここで言っているのかな。

【聞き方】

目標

自分の考えが相手に伝わる発表原稿になっているか、お互いに助言し合うことができる。

(2) 言語活動の重点化

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究できる国語の能力を身に付けられるように、言語活動を具体的に例示している。

これらの言語活動例と学びを深める「学び方」

とを対応させて考えることで、異年齢集団におけるかかわりから共に学び合うために有効な言語活動を絞り込むことができ、単元構成や授業構成を考える際に意図的に取り入れることができると考える。

これらをまとめると、次の表ようになる。

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
聞き方	・ メモ		
伝え方	・ 事物の説明 ・ 経験の報告 ・ あいさつ ・ 連絡 ・ 紹介 ・ 報告する文章 ・ 説明する文章 ・ 簡単な手紙	・ 出来事の説明 ・ 調査の報告 ・ 調べて報告する文章 ・ 説明する文章 ・ 目的に合わせた手紙	・ 資料を提示しながらの説明 ・ 資料を提示しながらの報告 ・ 推薦 ・ 意見を記述した文章 ・ 活動を報告した文章 ・ 編集 ・ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章
問い返し方	・ 応答 ・ 感想	・ 意見 ・ 読み取ったことを基にした話し方、聞き方	・ 助言、提案
全て	・ グループでの話し合い	・ 学級全体での話し合い	・ 討論

(3) 実践

学びを深める「学び方」を発揮する場面を明確化した授業を実際に行った。その際、「伝え合う力」の育成の重点化と言語活動の重点化の二つの視点から検証をした。

① 単元名

- 第5学年「目的に応じた伝え方を考えよう」
(教材「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」光村5年下)
- 第6学年「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」
(教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」光村6年下)

② 単元の目標（一部抜粋）

第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ○ 番組作りの大切な点を的確におさえながら、自分たちが番組を作るために必要な事柄を読み取る。 ○ 編集作業を通して、集めた材料を目的に合わせて整理し、加工して伝える。 ○ <u>放送原稿を発表し合い、相手に伝えるために効果的な表現の仕方に着目して助言する。【書くこと】</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えを持つ。 ○ <u>「平和」についてさらに考えるために調べ、深まった考えを分かりやすく構成して書いて交流する。【書くこと】</u>

なお、上の表の波線は交流に関する指導事項に関する目標を示す。目標を設定する際、学びを深める「学び方」と関連付けた。

また、本単元では異年齢集団におけるかかわりから共に学び合うことができる言語活動を、以下のよう設定した。

第5学年の言語活動	第6学年の言語活動
ビデオニュースの原稿・編集	平和についての意見文

本単元では、同学年だけでなく異学年とのかかわりから共に学び合うことができる場面を設定したいと考えた。そこで、単元の中間や終末で行う発表会という形での感想や意見の交流だけでなく、学習計画を立てたり課題解決したりする場面での交流を重視した単元構成で学習させることとした。

③ 実際



… 交流によって変わった児童の思いや考え など

… 学びを深める『学び方』を発揮する交流場面
 … 6年生からのかかわり
 … 5年生からのかかわり

学習過程	第5学年	第6学年
つかむ・みとらす②	<p>1 学習への意欲の喚起と学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想 <p>「複Ⅲニュース」をつくって、複式学級のみんなに観てもらおう。</p> <p>話し合いの途中に「アドバイスタイム」を設け、それぞれの学年が立てためあてについて意見を出し合う。</p> <p>※ 5年生が単元のためあてを立てる際</p> <p>ニュース番組をつくってみたい。でも、自分たちに作れるのか不安だな。</p>  <p>6年生のアドバイスで、作り方が分かってきた。自分たちにも作れそうだな。</p> <p>付加・修正</p> <p>関心・意欲の高まり</p> <p>【振り返りカードから（5年生）】 ニュース番組作りの楽しさや作り方について、6年生が去年のことを思い出しながら、たくさんアドバイスしてくれた。</p>	<p>1 学習への意欲の喚起と学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想 <p>「平和」についての自分の考えを複式学級のみんなに発表しよう。</p> <p>【6年生からのかかわり】</p> <p>去年、ぼくたちはニュース番組づくりをしたよ。みんなで分担して、原稿を書いたから、撮影したよ。</p> <p>前年度の学習との比較</p> <p>私たちはそれぞれの仕事の内容が分かるように、全員がアナウンサーをしたり、撮影をしたりしたよ。</p>  <p>※ 6年生が単元のためあてを立てる際</p> <p>【5年生からのかかわり】</p> <p>どうして平和がいいのか、詳しく知りたいです。</p> <p>同じ学級の友達として</p> <p>話が長くて、分かりにくいです。</p> <p>平和の大切さは分かるけど、〇〇さんらしさが出ていないです。</p> <p>付加・修正</p> <p>平和についての意見文を書いてみたけど、自分の考えが相手に伝わるか、不安だな。</p>  <p>どうすれば、もっと相手に自分の考えが伝わりやすい意見文を書くことができるか、教材文を読み取りながら考えていこう。</p> <p>関心・意欲の高まり</p> <p>【振り返りカードから（6年生）】 △△君が、「長くて分かりにくい。」と、はっきり言ってくれたので短くまとめようと思った。</p>
	しらべる⑤	<p>2 放送原稿の書き方の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ニュース番組作りの現場から」の読み取り ①形式段落、②要点、③意味段落、④文章構成 ⑤要旨→思いや願いの明確化 ⑥要約 → ニュース番組づくりの流れ <p>それぞれの教材を使って調べる際、「アドバイスタイム」を設け、積極的に異年齢集団での話し合いを行い、意見を出し合う。</p> <p>どちらの説明文も、「問題提起－説明－筆者の主張」の構成だね。</p> <p>知識・技能の高まり</p>
	<p>3 放送原稿の作成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識、目的意識を明確にした放送原稿の作成 	<p>3 意見文の作成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを受け止め、自分の考えをまとめた意見文作成

学習過程	第5学年	第6学年
<p>ふかめる⑤</p>	<p>4 放送原稿の作成②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを生かした原稿作成 <p>5 中間発表会</p> <p>5年生は放送原稿を、6年生は意見文の下書きを発表し合い、よりよいものにするために意見を出し合う。発表できなかったことは、付箋に書いて渡す。</p> <p>作成した原稿を基に、どのように撮影すればいいのかな。</p> <p>【同学年や異学年の友達とのかかわり】</p>  <p>同じ学級の友達として</p> <p>考えを書いたフリップを使えば、より伝えたいことが伝わるかな。</p>  <p>付加・修正</p> <p>インタビューするときには、自分の名前とインタビューの目的をきちんと伝えました。</p> <p>前年度の学習との比較</p> <p>実際にインタビューするのはすごい！話しかけるときは、なぜインタビューするかを言いたいかな。ありがとうございます！ありがとう！</p> <p>難しい言葉が多いです。「戦争」を低学年にどう伝えるのですか。</p> <p>下級生の代表として</p> <p>昨年学習した6年生の意見を取り入れながら、自分たちで考えて撮影するとより伝わりやすいニュース番組が作れそうだ。</p> <p>知識・技能の高まり</p>	<p>4 意見文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「平和」について自分の考えをまとめた意見文の作成 ・ 「平和」についての取材、考察 <p>5 中間発表会</p> <p>自分が書いた意見文で、自分の考えが下級生に伝わるかな。</p> <p>同じ学級の友達として</p> <p>「このように」という接続詞を入れてつなげた方が、自分の考えを伝えやすいと思います。</p>  <p>付加・修正</p> <p>もと自分の考えをくわしくすればいいと思う。</p> <p>同じ学級の友達として</p> <p>同じ学年で考えるだけでなく、伝える相手である下級生に意見をもらうことで、自分たちでは気づきにくいところに気付くことができました。</p> <p>学び方の高まり</p>
	<p>【振り返りカードから（5年生）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんにインタビューの仕方を、くわしく教えてもらって、勉強になった。 ・ 6年生にアドバイスを言ったら、「いいアドバイスだね。」と言われてうれしかった。 	<p>【振り返りカードから（6年生）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一度自分の意見文を読んで、下級生にとって難しい言葉はないか考えてみたい。 ・ 5年生が相手をうなずかせるアドバイスをしていたすごいと思った。
<p>いかす①</p> <p>ふりかえる・</p>	<p>6 発表の準備②</p> <p>(原稿の修正, 原稿読みの練習, 撮影)</p> <p>それぞれの発表の準備を進める際、積極的に異年齢集団の話し合いを行い、意見を出し合う。</p> <p>5年生が発表にフリップを使っていた。自分たちも、より自分の考えが伝わりやすいように使ってみよう。</p> <p>知識・技能の高まり</p>	<p>6 発表の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表補助資料(写真, 図など)準備 (原稿読みの練習, 撮影) <p>7 発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式Ⅰ, Ⅱ組への発表 ・ ふりかえり

④ 結果と考察

- 5年生の学習で、6年生にとって既習の言語活動を取り上げたことで、6年生は自分たちがした学習と比較した「聞き方」ができ、体験を基にした効果的な質問や意見を5年生に述べ、自分の考えを高めることができた。
- 6年生の意見文の発表を聞く際、5年生は下級生の代表として分からないところの「問い返し方」を使って質問することができ、自分の意見と比較させた意見を6年生に述べることができた。
- 一単位時間の最後に、学びを深める「学び方」を基にした学習のふりかえりの時間を設定したことで、次のような結果が得られた。
 - ・ 同学年間や異学年間のかかわりが増えたことで、自分の学び方を振り返ることができる機会が増え、次回の自分の学び方に生かそうとする子どもの姿が見られた。
 - ・ 異なる2つの説明文をそれぞれの学年の教材として取り上げ、異学年間のかかわりの中で比較しながら学習することで、一般的な説明文の構成が分かりやすくなり、読み取り方が理解しやすくなった。
- 一単位時間の途中に「アドバイスタイム」を設けることで、より多くの意見を基に自分の考えを強固・修正・付加することができた。

3 視点③「国語科授業以外での取組み」から

(1) 言語活動（各教科等）

国語科以外の授業においても、学びを深める「学び方」を意識して、進んで言語活動に取り組むことができるようにする。

具体的な活動内容

異年齢集団におけるかかわりの場面を意識的に盛り込んだ活動を積極的に設定する。

(例) 家庭科でミシンの使い方を調べる際、同学年だけでなく異学年と一緒に活動を行い、上学年からアドバイスをもらう。



(2) 朝の会（朝の活動）

聞き方・伝え方・問い返し方を意識し、日常生活の中でも学びを深める「学び方」をより発揮できるようにする。

具体的な活動内容

1分間スピーチの発表を朝の会を毎日輪番で行う。その際、発表だけでなく質問の時間も設けることで、学びを深める「学び方」を発揮できるようにする。



(3) 読書タイム

読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めることができるようにする。

具体的な活動内容

毎週木曜日の朝の活動の時間に行う。その際、一人読みだけでなく、おすすめ図書の紹介を行ったり、グループ単位で取り組むアニ

マシオンを行ったりする活動の中で、学びを深める「学び方」が発揮できる場面を積極的に設定する。



(4) ことばの時間（朝の活動）

言語の広がり、深まりを感じさせ、言葉に対する興味・関心を高めることができるようにする。

具体的な活動内容

「あいうえお作文」作り等のゲーム性の強い活動を行う。その際、多様な考え方に触れられるように、異年齢集団での意見交換の場を設定する。

の在り方を探る必要がある。

- 国語科以外の授業において、学びを深める「学び方」を意識した言語活動により進んで取り組んでいく必要がある
- 国語科の指導においても、国語科の各領域のねらいを達成させる、より具体的な複式国語科指導の在り方についての研究を深めていく必要がある。

【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」（東洋館出版社 平成20年）
- 小森茂 編著「新小学校国語科重点指導事項の実践開発」（明治図書 平成22年）
- 大熊徹 編著「『活用型』学習の授業モデル」（明治図書 平成20年）
- 高木展郎 編著「国語科の指導計画と授業づくり」（明治図書 平成20年）

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 指導内容の組合せを工夫したことで、複式学級の特徴を生かした国語科の年間指導計画を作成することが出来た。
- 「伝え合う力」の育成の重点化、言語活動の重点化という2つの視点から、学びを深める「学び方」を発揮する場面を明確化した指導を行うことができた。
- 国語科の授業以外でも、異年齢集団におけるかかわりを重視した指導を行うことができた。

(2) 課題

- 国語科以外の他教科等においても、異年齢集団におけるかかわりを重視した複式学級のカリキュラムを創造し、それを基にした指導